

動産・債権譲渡担保融資に関する 諸課題の検討

2010年6月

金融法務研究会

は し が き

本報告書は、金融法務研究会第2分科会における平成19年度の研究の成果である。

金融法務研究会は、平成2年10月の発足以来、最初のテーマとして、各国の銀行取引約款の検討を取り上げ、その成果を平成8年2月に、「各国銀行取引約款の検討—その1・各種約款の内容と解説」として、また平成11年3月に、「各国銀行取引約款の比較—各国銀行取引約款の検討 そのⅡ」として発表した。平成11年1月以降は、金融法務研究会を第1分科会と第2分科会とに分けて研究を続けている。

第2分科会では、平成11年度・12年度に、「消費者との銀行取引における法律問題について」を、平成13年度に「金融取引における『利息』概念の検討」を、平成14年度に「預金の帰属」を、平成15年度に「債権・動産等にかかる担保法制の問題」を、平成16年度は「最近の預金口座取引をめぐる諸問題」を、平成17年度には「担保法制をめぐる諸問題」を、また平成18年度には「銀行取引をめぐる消費者保護の現代的展開」をそれぞれテーマとして取り上げ、報告書を発表している。同分科会では、平成19年度には「動産・債権譲渡担保融資に関する諸課題の検討」をテーマとして取り上げ、そこでの研究成果が本報告書である。なお、同分科会では、平成20年度には「預金債権の消滅等に係る問題」を、平成21年度には「相殺および相殺の取引をめぐる金融法務上の現代的課題」をテーマとして取り上げ、研究を続けている。

本報告書では、第1章で「ABLと担保」(能見善久担当)、第2章で「将来又は多数の財産の担保化」(中田裕康担当)および第3章で「複数債権者・複数担保権者に係る問題」(山田誠一担当)を取り上げている。

第1章では、事業主が在庫商品、売掛代金債権等を包括的に担保にして、融資を受ける方法—ABL—につき、そこにおける担保設定、担保目的物の管理、後順位担保権、換価処分等につき論じている。第2章では複数の財産の担保化をめぐる問題点、債権譲渡担保、動産譲渡担保、将来・多数財産としての集合財産の担保化等について論じている。第3章では複数債権者・複数担保権者に係る問題につき、抵当権、根抵当権、動産質、譲渡担保、セキュリティ・トラスト等について論じている。いずれも近時の銀行実務に密接に関連するテーマである。なお、上記の論文の他に、参考として研究会報告の際のレジюмеを載せている。本報告書が銀行実務家をはじめ、各方面の方々のお役に立つことができれば幸いである。

本研究会には、銀行の法務分野の実務を担当される方にオブザーバーとして参加いただいている。また、事務局は本テーマ検討時には全国銀行協会金融調査部、平成20年度からは同業務部をお願いしている。

最後に、本報告書の作成にあたって尽力を惜しまれなかったオブザーバーおよび事務局の方々に心から御礼を申し上げたい。

平成22年6月
金融法務研究会顧問
前 田 庸

目 次

第1章 ABLと担保（能見善久）	1
1 ABL（序論）	1
2 ABLにおける担保設定	2
(1) 概要	2
(2) 集合動産譲渡担保	3
(3) 集合債権譲渡担保	4
(4) 口座管理	7
3 担保設定後の担保目的物の管理	8
(1) モニタリング	8
(2) 担保目的物の売却	8
4 後順位担保権	12
5 換価処分	13
第2章 将来又は多数の財産の担保化（中田裕康）	14
1 複数の財産の担保化をめぐる問題	14
2 債権譲渡担保	15
(1) 問題点と分析手法	15
(2) 単発の将来債権	16
(3) 単一債務者との間で継続的に発生する将来債権	25
(4) 多数債権	26
(5) 将来・多数の債権の譲渡担保の問題点の整理	29
3 動産譲渡担保	29
(1) 問題点と分析手法	29
(2) 将来動産	30
(3) 多数動産	31
(4) 将来・多数の動産の譲渡担保の問題点の整理	32

4	将来・多数財産としての集合財産の担保化	33
(1)	集合財産の問題の構造	33
(2)	「将来性×多数性」の問題	33
(3)	「動産+債権」の問題	34
(4)	むすび	34
第3章	複数債権者・複数担保権者に係る問題（山田誠一）	35
1	問題の指摘	35
2	抵当権	36
(1)	複数の抵当権	36
(2)	1個の抵当権	37
3	根抵当権	44
(1)	複数の根抵当権	44
(2)	1個の根抵当権	45
4	動産質権	47
(1)	複数の質権	47
(2)	1個の質権	47
5	債権質	47
(1)	複数の債権質	47
(2)	1個の債権質	47
6	譲渡担保権	48
(1)	複数の譲渡担保権	48
(2)	1個の譲渡担保権	48
7	セキュリティ・トラスト終了の際の問題	48
(1)	問題の所在	48
(2)	担保権だけを、移転することができるか	49
(3)	受託者から、複数の受益者に、担保権を移転する場合の問題	49
(4)	セキュリティ・トラストの可能性	49

(参考レジュメ①) 譲渡担保の今日的な発展可能性 (野村豊弘)	51
(参考レジュメ②) 将来又は多数の財産の担保化 (中田裕康)	53
(参考レジュメ③) 複数債権者・複数担保権者に係る問題 (山田誠一)	55
(参考レジュメ④) ABLと担保 (能見善久)	57
(参考レジュメ⑤) 集合財産譲渡担保の手続法上の諸問題 (青山善充)	63